

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	日本経済	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

日本国籍の方も、外国人留学生も、卒業後に日本で就職する皆さんにとって、日本の経済を正確に理解することは非常に重要です。経済学や社会学では、「経路依存性」という用語がよく用いられます。これは、過去に行われた人々の選択が、現在の私たちの選択に影響を与えることを意味しています。そのため、現在の日本の経済的な出来事の多くは、過去との連続性があると考えられます。この理解のもとに、現在の日本経済を適切に理解するためには、歴史を振り返り、日本経済がたどってきた道を俯瞰することの重要性が理解できます。この考えに基づき、本講義では日本経済の歴史を学び、1990年代以降の日本経済の停滞の原因を深く理解しようとしています。また、国民経済計算をはじめ、経済に関連する様々な統計データの読み解き方も学びます。これらの学習を通じて、日本での企業活動や政府の政策に対する自分の意見を述べる能力を身につけることを目指します。

・参考文献

宮崎勇・本庄真・田谷禎三 [2021] 『日本経済図説 第五版』 岩波新書

釣雅雄 [2014] 『入門日本経済論』 新世社

野口悠紀雄 [2017] 『日本経済入門』 講談社

到達目標

- ・因果関係の把握力の向上：日本経済に関連する様々な統計データを用いて、歴史的な出来事が後の時代にどのような影響を与えたかを追求し、その歴史的な流れや因果関係を明らかにする能力を育てます。
- ・日本経済への理解の深化：日本での就職を控え、日本の経済がどのような経緯をたどり、どのようなメカニズムで動いているのかをしっかりと理解し、その理解を実務で生かせるようにすることを目指します。
- ・日本経済の相対的理解：日本経済を日本内外の視点から見極め、その相対的な位置を把握する訓練を行い、卒業後の現場でより客観的な判断ができるように能力を養います。

回	内 容	回	内 容
1	日本経済の軌跡：近代化と戦争	18	日本経済と金融：貯蓄・直接金融・間接金融
2	日本経済の軌跡：復興と高度成長	19	日本経済と金融：証券市場・為替市場
3	日本経済の軌跡：バブルとデフレ	20	日本経済と金融：金融政策の目標と手段
4	日本経済と人口：人口動態と少子高齢化	21	日本経済と財政：財政の規模と構造
5	日本経済と環境：土地利用と自然災害	22	日本経済と財政：税制と国債
6	日本経済と国富：国富の構成	23	日本経済と財政：財政政策と財政再建
7	日本経済の構造：国民所得統計とGDP	24	日本経済と国際収支：輸出・輸入
8	日本経済と情報通信：情報化と雇用	25	日本経済と国際収支：サービス・所得収支
9	日本経済と情報化社会：産業構造への影響	26	日本経済と国民生活：経済力と生活の質
10	日本経済と情報化社会：社会的影響と課題	27	日本経済と国民生活：社会保障
11	日本経済と労働：就業構造の変化	28	日本経済と国民生活：年金問題
12	日本経済と労働：技術革新と労働生産性	29	日本経済の停滞：「企業」行動・投資の変貌
13	日本経済と労働：利益剰余金と労働分配率	30	日本経済の停滞：「国民」需要不足と購買力
14	日本経済と労働：賃金と経済成長の関係	31	日本経済の停滞：「政府」金融財政政策の再考
15	日本経済と雇用：失業率・外国人労働者	32	日本経済の展望：コロナ・ショック
16	前期のまとめ（日本経済の変遷）	33	日本経済の展望：アジア・世界の中の日本
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ（日本経済の特徴）
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	経済学	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

経済理論は論理構築のために具体的な事柄を抽象化し、限定された条件のもとで思考実験を行うことで成り立っています。そのため、経済理論は現実の経済とは多少の乖離があるものの、経済現象の分析における基本的な考え方を提供し、問題の本質に迫ることができます。この授業では、現代経済の核心である市場原理の理解と問題点の認識を深めることを目指します。また、マクロ経済学では、国民経済計算を基に、国家経済の構造や政府の経済政策の影響について学びます。これにより、日々の経済現象の本質を理解し、ビジネスや社会活動に必要な経済学の基礎知識を習得することが目標です。講義では、前半で経済学の目的と歴史、ミクロ経済学を、後半でマクロ経済学と経済政策を学び、経済理論の体系を構築します。

・参考文献

井堀利宏 [2015] 『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』 KADOKAWA
植田和男 [2017] 『大学4年間の金融学が10時間でざっと学べる』 KADOKAWA
宇野弘蔵編著 [2019] 『経済学 上・下巻』 角川ソフィア文庫
坂井豊貴 [2017] 『ミクロ経済学入門の入門』 岩波書店

到達目標

- ・ミクロ的な視点：ミクロ経済学では、完全競争市場下での需要と供給の曲線の特性を把握し、その条件が変わるとどのように独占や寡占が生じるか、実際の経済で起こるさまざまな問題が市場にどう影響するかを理解することを目指します。
- ・マクロ的な視点：マクロ経済学では、国民経済計算の基本を理解し、一国の経済成長に必要な条件を把握することで、日本経済の現状を理解するための基礎的な能力を育てることを目指します。
- ・現状分析：経済に関する議論で使われるキーワードの内容を学び、様々なメディアから提供される情報を自分自身で理解できるようにすることを目的とします。

回	内 容	回	内 容
1	経済学の概要	18	マクロ経済学：GDPの概要と決定原理
2	経済学の歴史：スミスとマルクス経済学	19	マクロ経済学：三面等価の原則
3	経済学の歴史：ケインズ学派と制度学派	20	マクロ経済学：経済主体（家計・企業・政府）
4	経済学の歴史：新古典派と新古典派総合	21	マクロ経済学：政府の財政政策
5	ミクロ経済学とマクロ経済学	22	マクロ経済学：資源配分・経済安定化機能
6	ミクロ経済学：需要曲線と供給曲線と価格	23	マクロ経済学：所得再分配機能
7	ミクロ経済学：消費者の行動	24	マクロ経済学：税制と所得再分配効果
8	ミクロ経済学：企業の行動	25	マクロ経済学：現金給付・現物給付
9	ミクロ経済学：市場の機能	26	マクロ経済学：政府の金融政策
10	ミクロ経済学：価格メカニズム	27	マクロ経済学：中央銀行の役割
11	ミクロ経済学：無差別曲線	28	マクロ経済学：インフレ・デフレ
12	ミクロ経済学：独占と寡占（様々な市場）	29	マクロ経済学：物価水準
13	ミクロ経済学：外部性（他人からの損得）	30	マクロ経済学：労働市場
14	ミクロ経済学：経済財・自由財・公共財	31	マクロ経済学：経済成長と経済政策
15	ミクロ経済学：情報の非対称性	32	マクロ経済学：国際収支と為替レート
16	前期のまとめ（経済学の歴史・ミクロ経済学）	33	マクロ経済学：政府と市場の関係
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ（マクロ経済学）
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	日本の生活	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
<p>今日本で生活している皆さんにとって、日本の生活とはどのようなものでしょう。日本で生まれて日本で生活している人にとっては当たり前のように思えることでも、日本国外で生まれて、来日して接する日本の生活で不思議に思えることもあるでしょう。それぞれの国や地域に、その国や地域を特徴づける文化があるように、ものの考え方やその基盤となる日々の生活は、それぞれの地で異なります。日本国内を見ても、地域により異なる風習や生活が育まれています。当授業では、今の日本の生活や日本人のものの見方をかたちづくる背景：地理、歴史、家族、自然、環境、社会などについて学び、日本という国の現状を生活面から理解していきます。同時に、現代の日本で必要とされているもの、過剰なもの、快適なもの、問題とされるものを考えながら、ビジネス形成に繋がるアイデアを探っていきます。</p>			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ● 生活文化が生まれる背景を理解する ● 日本人の生活を知り、日本でより快適に過ごすことを目指す ● 日本の現状を知り、スタートアップに繋がるアイデアを探る 			
回	講義計画	回	講義計画
1	オリエンテーション	18	家族のかたち：家族形態の変遷を理解する
2	生活文化：生活文化について考え理解する	19	1) 経済と家族のかたち
3	1) 衣について	20	2) 都市での家族
4	2) 食について	21	3) 農村での家族
5	3) 住について	22	4) 少子高齢化
6	歴史からみた生活文化：歴史から伝統を知る	23	自然環境と生活：自然が及ぼす生活への影響
7	1) 貴族文化	24	1) 気候
8	2) 武家社会	25	2) 生活風習
9	3) 庶民文化	26	3) 自然災害
10	3) 明治時代以降	27	4) 防災
11	地理と生活：地域別風習や習慣の違いを知る	28	現代を生きる1：デジタル化の生活
12	1) 本州	29	1) 金融のデジタル化
13	2) 北海道	30	2) 医療のデジタル化
14	3) 四国	31	3) 仕事のデジタル化
15	4) 九州	32	現代を生きる2：現代病を考える
16	5) 沖縄と島々	33	1) 生活習慣病、アレルギー
17	前期試験	34	2) ストレス
		35	後期試験

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	日本の社会	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

当授業では、「持続可能な開発目標 (SDGs)」に沿って日本の社会を考えていきます。SDGsとは、国際社会が2015年に定めた国際目標であり、17の目標と169の指標(ターゲット)で構成されています。各国それぞれが定めた課題や指標を2030年までに達成することで、より安定した暮らしやすい社会の実現を、わたしたちの世界は目指しています。国が違えば環境が異なり、社会の成り立ちやその背景、それに伴う問題点も様々です。SDGs17の目標にそって日本の今を理解することは、日本の社会のみならず、世界目標の中での日本の立ち位置、そして、他国(海外からの皆さんの出身国も含めて)との関連が見えてきます。それは、日本でのビジネスシーンで活かされることは勿論ですが、海外または自らのお国でビジネスを展開していく際にも必要とされる、国際感覚を養うことでもあります。社会は変化し続けています。日本の社会の現状を、共に考えていきましょう。

到達目標

情報が溢れ、誰もがその情報に気軽にアクセスできる現代社会だからこそ、知り得た情報を鵜呑みにするのではなく、自らの頭で考えることが求められています。当授業の到達目標は、授業で得た日本社会の現状やその情報を、社会に対する自らの理解と対比させながら考えて、アウトプットすることです。そのために、それぞれの考えを発信し意見交換するためのグループワークを適宜実施します。より深く社会を考え理解することを目指して、皆さんの考える姿勢や考える力を評価します。

回	講義計画	回	講義計画
1	SDGsの17の目標と日本の社会について	18	前期試験内容の見直しと理解
2	「目標1: 貧困」日本の貧困問題とその対策	19	「目標8: 働きがいと経済成長」日本の労働環境、都市と地方、高齢化社会
3		20	
4	「目標2: 飢餓」日本の食糧事情とフードバンク	21	「目標9: 産業と技術革新」日本の産業の変遷と現状
5		22	
6	「目標3: 健康と福祉」日本の医療と福祉	23	「目標10: 人や国の不平等」日本の難民問題、移民対策
7		24	
8	「目標4: 教育」日本の学校教育と就学率の変遷、教育問題	25	「目標11: まちづくり」日本の環境と住みやすい街づくり
9		26	
10	「目標5: ジェンダー」日本のジェンダーギャップの現状、LGBTQへの対応	27	「目標13: 気候変動対策」日本の取り組み、日本の技術支援
11		28	
12	特別編「日本の夏休み」	29	
13	「目標6: 安全な水とトイレ」日本の水資源と現状	30	「目標14: 海の豊かさ」日本の海と産業、日本の水産資源
14		31	
15	「目標7: エネルギー」日本のエネルギー資源とエネルギー対策	32	「目標15: 陸の豊かさ」日本の森林経営、日本の生物多様性
16		33	
17	前期試験	34	一年間の「日本の社会」復習
		35	後期試験

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	経営学	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

1. 「**長期的視点**」：10年後から逆算した演繹思考と具体的な帰納的行動で可能性を拓く人材を育てる
2. 「**根元的視点**」：物事の「真理」と人間の「本質」をつかみ、ビジョンを実現したいと願う人材を育てる
3. 「**多面的視点**」：人びとの多様な知恵から学び、自分を創りあげる人材を育てる

到達目標

「アジアの中から世界を変える人材を育てる」

1. 「**ビジョナリー**」を志す：ビジョンと勇気で不確実をチャンスとし、自国と世界の未来を変える
 2. 「**地球の目**」をもつ：人種・信仰・国の枠を超えて、地球と自然と人類を考えようとする
 3. 「**YBCの多様性**」を活かす：人の転機は「ヒト・旅・知識」YBCはインキュベータ
- 歴史的に見て平和な時代ではなく、混乱期の中で、多くの「ビジョナリー」が新しい世界と時代を創った。いま、日進月歩のITの進化と移動の高速化から「時空」は確実に狭くなり、過去の常識や固定観念が全く通用しない時代となっている。このYBCの仲間が交流するネットワークは、彼らが抱いたビジョンを実現するための大きな力となる。イノベーションの本来の意味は「新しい繋がり」。人と人の新しい結びつきがヒントとなり大きな変革（Innovation）を生み出し、自国とアジアと世界を変える力になると信じています。

回	内 容	回	内 容
1	講義の全体像、学生生活へのアドバイス	18	②「顧客の創造」とは「信用の創造」
2	アジアの歴史：支配と隷属・戦争・独立・発展	19	3. 「なかま（人）」という見えない資産
3	アジア各国の現在と可能性	20	ビジョンがなかまを惹きつける
4	「志（ビジョン）」は人生の目的・生きた証	21	YBCは多様性に満ちたなかまの場
5	世界を変えた「ビジョナリー」に学ぶNo.1	22	4. 「しくみ」という見えない資産
6	世界を変えた「ビジョナリー」に学ぶNo.2	23	「しくみ」によるビジネスモデル
7	世界を変えたビジョナリーに学ぶNo.3	24	ゲームチェンジャー
8	「志（ビジョン）」「理念」「戦略」の体系	25	5. 「情報」という見えない資産
9	「普遍の法則」から戦略を導く	26	情報の原則：現場性・同時性
10	「8つの見えない力」が組織の優劣を決める	27	フェイク情報を見ぬく
11	財務諸表には表れない「暗黙知」という資産	28	6. 「情熱」という見えない資産
12	1. 「時間（スピード）」という見えない資産	29	すべては情熱と勇気から始まる
13	IT・物流が「時空」を変えた	30	「情熱」が「継続性」を生みだす
14	世界的「時間価値競争」の時代	31	7. 「本質」を見ぬく力
15	2. 「信用」という見えない資産	32	ものごとの根っ子をつかむ
16	お客さまの求めるものは「価値」	33	「科学的思考法・ロジカルシンキング」
17	期末試験（前期）	34	これからの10年間で人生を決める
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	企業戦略・事業計画	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
<p>企業戦略を含む経営戦略の概要を理解する。</p> <p>未来に向けて国際人の視点を持って企業戦略を立てることができる。</p> <p>企業の事業計画を各業務と部署によって必要な計画を理解する。</p> <p>自分の会社を設立する際の事業計画書の作成ができるだけの知識をつける。</p>			
到達目標			
<p>経営戦略の基礎と市場分析の方法、企業内における業務の把握と連携を理解する。</p> <p>自分の会社を設立するという仮定で事業計画書の作成ができるようになる。</p> <p>第三者に自分の考えやアイデアなどをプレゼンできるだけの計画書を作るための手法を身に付ける。</p>			
回	内 容	回	内 容
1	講義の全体像、講義の準備、Teams の使い方	18	企業の事業計画①：5箇年計画・3箇年計画
2	企業戦略とは	19	企業の事業計画②：マーケティング計画
3	経営戦略①：創発的戦略・成功の方程式	20	企業の事業計画③：販売計画
4	経営戦略②：多角化・シナジー効果	21	企業の事業計画④：生産計画
5	全社戦略①：PPMとドメイン	22	企業の事業計画⑤：商品開発計画
6	全社戦略②：コアコンピタンス・戦略的提携	23	企業の事業計画⑥：プロモーション計画
7	競争戦略①：基本の3戦略	24	企業の事業計画⑦：販売促進計画
8	競争戦略②：コストリーダーシップと差別化	25	企業の事業計画⑧：イベント計画
9	競争戦略③：模倣戦略と知的財産権	26	小さな事業計画書①：事業のビジョン
10	事業戦略①：ファイブフォースモデル	27	小さな事業計画書②：市場分析と優位性
11	事業戦略②：SWOT分析	28	小さな事業計画書③：人材と組織
12	事業戦略③：VRIOフレームワーク	29	小さな事業計画書④：4半期計画
13	アウトソーシング	30	小さな事業計画書⑤：3箇年計画
14	マーケティング	31	小さな事業計画書⑥：資金繰り
15	カスタマー	32	フローチャート①：概要
16	国際経営	33	フローチャート②：実践①作成
17	期末試験（前期）	34	フローチャート③：実践②発表
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	日本の企業・海外の企業 (キャリアデザイン)	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1 学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

自分のもっとも得意なことをできるだけ早く見つけてそれに向かって邁進すること。文化の違いを無意識から意識の上にあげることによって他の文化に対する興味、敬意を持つことができる。相互理解を深め異文化にある中で活躍できる人材を目指す。

到達目標

人がどう評価するかではなく自分自身が真心から納得できること（仕事）で社会に貢献する人物になる。そうすると結果として、人からも評価されるようになる。学生は潜在的に素晴らしいものを持っている。その才能、強みを如何に顕在化するかを探求する。

講義計画

回	内 容	回	内 容
1	キャリアデザインを学ぶ意義	18	企業のミッション・ビジョン
2	はたらくとは何かーキャリアの定義	19	コンピテンシーについて
3	Internal Motivation vs External Motivation	20	Job Description
4	日本における企業の起こり・歴史	21	高校までのキャリア 1
5	日本の企業 1	22	高校までのキャリア 2
6	日本の企業 2	23	山手ビジネスカレッジでのキャリア 1
7	日本の企業 3	24	山手ビジネスカレッジでのキャリア 2
8	日本の企業 4	25	入社後のキャリアの危機
9	海外の企業 ーアメリカ	26	30歳をにらむ時期のキャリアデザイン 1
10	海外の企業 ーヨーロッパ	27	30歳をにらむ時期のキャリアデザイン 2
11	海外の企業 ーアジア 中国	28	基礎力を身につける-すべてに仕事に共通する力
12	労働基準法・就業規則 その1	29	基礎力を身につける-対人能力 1
13	労働基準法・就業規則 その2	30	基礎力を身につける-対人能力 2
14	コンプライアンスとガバナンス	31	基礎力を身につける-対自己能力
15	社風	32	基礎力を身につける-対課題能力
16	まとめ 1	33	基礎力を身につける-処理力・思考力, 仕事に向かう態度
17	期末試験 (前期)	34	まとめ 2
		35	期末試験 (後期)

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	ビジネスマナー	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

日本企業に就職する際に必要とされるマナーは就職活動の場でのマナーに通じます。そして、自分の意見や考えを相手にしっかり伝えられるようになるためには知識に加えて経験も必要不可欠です。授業では知識を身につけるだけでなく経験の場を与え、ビジネスマナーを習得していきます。後期の授業については就職した際に必要とされる知識を中心に講義を進めます。実社会に出た上で対応できる知識とスキルを習得していきます。

到達目標

日本企業、そしてグローバル企業に就職できる人材を育成していきます。初回授業での自己紹介から1年を通じて、学年末には自分の考えや思いを十分に伝えられ学生が自身の成長を実感できるようになることです。そして3月には始まる就職活動を自信を持って開始できるように授業を進めます

回	内 容	回	内 容
1	授業の進め方と自己紹介	18	テレワーク（オンライン説明会参加について）
2	自己表現（作文）	19	インターンシップについて
3	日本人と働く心構え	20	エントリーとインターンシップ参加
4	時間厳守	21	訪問のマナー
5	身だしなみ	22	配慮のある話し方
6	あいさつ・お辞儀	23	上司・先輩との付き合い方
7	自己分析1（長所・短所）	24	ウチとソトの関係・チームワーク
8	自己分析2（経験から得たもの）	25	話を聞く時・指示を受ける時
9	企業研究の方法1	26	報告・連絡・相談
10	企業研究の方法2	27	情報管理・ハラスメント
11	履歴書作成1	28	場所ごとの席次
12	履歴書作成2	29	案内と見送り
13	敬語のつかい方	30	面接1
14	電話の受け方・かけ方	31	面接2
15	ハガキと封筒の使い方・書き方	32	自己紹介 プレゼンテーション1
16	ビジネスメールの書き方	33	自己紹介 プレゼンテーション2
17	期末試験（前期）	34	後期試験の為の理解度チェック
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	産業各論 I	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1 学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2 単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

広義における産業とは、人間が生存するために必要な物やサービスを生産する全ての活動を指します。これは人間の生活にとって不可欠な活動です。狭義における産業は、日常生活で行われる具体的な職業を指します。現代社会では産業や職業が細分化されていますが、それらは相互に連携しており、人間の生活を支える重要な基盤です。したがって、産業の意味は単にどこで働くかに限られるものではありません。産業を理解することは、私たちが日々生産する物やサービスがどのように私たちの日常生活を形成し、支えているかを理解するための出発点です。この授業では、このような問題意識に基づいて、産業界に存在する多様な職業の紹介に留まらず、それぞれの職業が持つ社会的な意味を明らかにしながら、産業や職業自体について深く学ぶことを目指します。

・参考文献

イノウ [2021] 『ひとめでわかる産業図鑑&業界地図 改訂新版』 技術評論社
尾崎巖 [2004] 『日本の産業構造』 慶應義塾大学出版会
小田切宏之 [2019] 『産業組織論——理論・戦略・政策を学ぶ』 有斐閣
小林秀二 [2016] 『ビジネス・エコノミクス—近代から人工知能まで 産業構造の変化とメゾ経済データから読み解く「企業戦略とマーケティング」「地域とサービス」「ビジネス・モデルと仕事」』 NextPublishing Authors Press

到達目標

・責任ある社会の一員：スキルを身につけ、現場力を活かすビジネスパーソンとして、同時に自分の仕事や所属する産業が社会にどのような意味を持つのかを深く理解し、社会に対して責任を持った一員となることを目指します。

・多才な人材：世界中のさまざまな産業を学びつつ、それぞれの産業や仕事の意味や独自性をしっかりと把握し、就職や転職に柔軟に対応できる多才な人材を目指します。

回	内 容	回	内 容
1	産業①分類・定義・学説	18	第一次産業：農業①農業の発展と停滞
2	産業②関連表	19	第一次産業：農業②地産地消・アグリビジネス・スマート農業
3	産業「Industry」に関わるプレイヤー	20	第一次産業：林業
4	産業構造の発展①第一次産業革命	21	第一次産業：漁業・水産業
5	産業構造の発展②第二次産業革命	22	第三次産業①サービス産業
6	産業構造の発展③第三次産業革命	23	第三次産業②情報通信業
7	産業構造の発展④第四次産業革命	24	第三次産業③運輸業・宿泊業
8	現代日本の産業構造①全体像と変化	25	第三次産業④旅行業
9	現代日本の産業構造②主要産業と企業	26	第三次産業⑤不動産業
10	現代日本の産業構造③サプライチェーン	27	第三次産業⑥卸売・小売業
11	現代日本の産業構造④地域産業	28	第三次産業⑦銀行・証券
12	産業構造の変化①イノベーション	29	第三次産業⑧保険業
13	産業構造の変化②今後の動向・Society 5.0	30	第三次産業⑨医療・福祉
14	第二次産業①製造業の概要	31	第三次産業⑩教育・学習支援業
15	第二次産業②製造業の課題	32	第三次産業⑪シェアリング・その他サービス
16	前期のまとめ	33	第三次産業⑫プライダル・セレモニー・アミューズメント
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	商法・会社法	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
<p>法律の学習を通して、論理的な思考や多面的な思考を養う。原則を守り、公平な解決策を示す、よきリーダーであり、よきトラブルシューターとなることを目指す。</p> <p>日本の企業の運営の基礎となる商法と会社法を学び、法律から見たビジネスの在り方を学習する。学習の範囲には、商法・会社法のほか、その一般法である民法や、その他ビジネスに関連する法律を含める。</p> <p>授業では、裁判例を身近な問題に当てはめ、専門用語をできるだけわかりやすく解説する。</p>			
到達目標			
<p>1) 法の体系と法律用語の基礎的な知識を身につける。</p> <p>2) 裁判例などの実例を通して法的なものの考え方を理解する。</p> <p>3) 会社制度の法的な枠組みと運営上の現実の問題について知る。</p> <p>4) ビジネスでの法令遵守の必要性を認識し、規範意識を身につける。</p>			
回	内 容	回	内 容
1	ビジネスと法	18	会社法⑦役員等の義務と責任2
2	法の一般原則	19	会社法⑧会社と取締役間との訴訟
3	法律用語・六法の見方	20	会社法⑨委員会型の会社
4	商法・会社法と民法	21	会社法⑩コーポレート・ガバナンス
5	民法①契約・債権債務	22	会社法⑪計算・配当
6	民法②法律行為・時効	23	会社法⑫資金調達・社債
7	民法③不法行為	24	会社法⑬組織再編・事業譲渡・持分会社
8	商法①商人と商行為	25	会社法⑭内部統制システム・金融商品取引法
9	商法②商号・商業使用人	26	法令違反リスク①金商法インサイダー取引
10	商法③商事契約	27	法令違反リスク②独占禁止法・下請法
11	会社法①会社の種類・定款・設立	28	法令違反リスク③刑法・コンピュータ犯罪
12	会社法②株式・株主・資本金	29	法令違反リスク④著作権法・特許法
13	会社法③株主総会・取締役	30	法令違反リスク⑤労働法
14	会社法④取締役会・監査役・会計監査人	31	法令違反リスク⑥税法・消費者法
15	会社法⑤代表取締役	32	法令違反リスク⑦製造物責任法・環境法
16	会社法⑥役員等の義務と責任1	33	法令違反リスク⑧その他
17	期末試験（前期）	34	まとめ・コンプライアンス経営
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授業の方法	実技
授業科目名	IT実習 I	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1 学年	授 業 回 数	全 1 7 5 回
単 位 数	5 単位	授 業 時 間	1 コマ / 5 0 分
授業科目の目的・内容			
<ul style="list-style-type: none"> ● IT に関する基礎的な用語の意味を理解し、知識と操作方法を習得することを目的とする。 ● Windows OS を用いて MS Office の Excel、Word、PowerPoint の使い方を中心に学習する。 ● ハードウェアの構造やネットワークの仕組みについても学習する。 ● ビジネスで用いる書類データの取扱い方や、データ整形について実践を通じて習得する。 ● ネットワークを通じたデータの収集と集計、検索、共有と情報発信、IT 利用のリスクやセキュリティ対策について学習し、これらを通じて、現代社会で必要とされる情報リテラシーを習得する。 			
到達目標			
1) Windows PC とネットワークの仕組み、用語を理解する 2) MS Office Excel、Word、PowerPoint の機能理解と操作習得 3) デジタルデータの取り扱い方を理解する 4) IT 利用時のリスクとセキュリティを理解する			
回	内 容	回	内 容
01～04 回	コンピューター操作の基礎	088～096 回	Excel 実習 1 見積書を作る
05～09 回	IT 日本語リテラシー	097～105 回	Excel 実習 2 売上記録を整理する
10～13 回	IT コミュニケーションの基礎	100～122 回	Excel 実習 3 名簿を作る
14～18 回	身の回りの IT を調査する	123～127 回	高度なデータ管理と検索
19～33 回	MS Office 基礎 Excel	128～132 回	アンケート概要と作成
34～41 回	MS Office 基礎 Word	133～137 回	アンケート実施と集計
42～48 回	MS Office 基礎 PowerPoint	138～142 回	アンケート集計結果発表
49～53 回	デジタルドキュメントと印刷	143～146 回	ドキュメントのオンライン共有
54～58 回	ファイル構造を理解する	147～151 回	用途別データの整形
59～63 回	OS の機能と役割	152～156 回	バイラルマーケティングと SNS
64～72 回	さまざまなファイル形式	157～161 回	オンラインサービスのマネタイズ
73～77 回	ハードウェアの構造理解と機種選定	162～174 回	IT 利用のリスクとセキュリティ対策
78～82 回	インターネットの仕組み	175 回	期末試験（後期）
83～86 回	Wi-Fi とモバイルネットワーク		
87 回	期末試験（前期）		

※期末試験は前期 1 回、後期 1 回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	英語 I	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1年	授 業 回 数	全175回
単 位 数	10単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

勉強は受動的にするものではなく、能動的にするものです。自らが学ぼうとする時の姿勢は、人から言われて学ぶ時よりも飛躍的な成績向上に直結します。そのため、なぜ自分が勉強をしなければならないか、そして勉強をすることによりどんなことが自分に返ってくるのかを常に考えながら能動的に学習する環境を重視しています。英検準1級等を取得することが大学進学や就職でも役立つことを理解してもらった上で、毎日英語 I の授業に積極的に参加してほしいと思います。

到達目標

当校は修業年限2年となります。1年次前期に実用技能英語検定準2級、後期に2級の取得、2年次には準1級の取得を目標とします。各級取得に向けて、英語の学習を細分化し、効率的に英語力を取得していきます。「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を学習する上で、英語 I では、前期で英検準2級、後期に英検2級で必要な「読む」「書く」技能を習得することを目標に学習していきます。

回	内 容	回	内 容
1～9	①出る順単語 A ②英検トレーニングゼミ Lesson 1 ワークシート Lesson1 ③出る順合格問題集 大問 1	88 ～ 96	①出る順単語 A ②英検トレーニングゼミ Lesson 1・2 ワークシート Lesson 1・2 ③語彙・イディオム問題 500 1-1 ④長文読解問題 150 1 ウォーミングアップ
10 ～ 18	①出る順単語 B ②英検トレーニングゼミ Lesson 2 ワークシート Lesson2 ③出る順合格問題集 大問 1	97 ～ 105	①出る順単語 B ②英検トレーニングゼミ Lesson 3 ワークシート Lesson 3 ③語彙・イディオム問題 500 1-2 ④長文読解問題 150 2 語句空所補充問題
19 ～ 27	①出る順単語 C ②英検トレーニングゼミ Lesson 3 ワークシート Lesson3 ③出る順合格問題集 大問 1	106 ～ 114	①出る順単語 C ②英検トレーニングゼミ Lesson 4 ワークシート Lesson 4 ③語彙・イディオム問題 500 1-3 ④長文読解問題 150 2 語句空所補充問題
28 ～ 36	①出る順熟語 A ②英検トレーニングゼミ Lesson 4 ワークシート Lesson4 ③出る順合格問題集 大問 2	115 ～ 123	①出る順熟語 A ②英検トレーニングゼミ Lesson 5 ワークシート Lesson 5 ③語彙・イディオム問題 500 2-1 ④長文読解問題 150 2 語句空所補充問題
37 ～ 45	①出る順熟語 B ②英検トレーニングゼミ Lesson 5 ワークシート Lesson5 ③出る順合格問題集 大問 2	124 ～ 132	①出る順熟語 B ②英検トレーニングゼミ Lesson 6 ワークシート Lesson 6 ③語彙・イディオム問題 500 2-2 ④長文読解問題 150 2 内容一致選択問題
46 ～ 54	①出る順会話表現 ②英検トレーニングゼミ Lesson 6 ワークシート Lesson6 ③出る順合格問題集 大問 3	133 ～ 141	①出る順会話表現 ②英検トレーニングゼミ Lesson 7 ワークシート Lesson 7 ③語彙・イディオム問題 500 2-3 ④長文読解問題 150 2 内容一致選択問題

55 ～ 63	①出る順単語C review ②英検トレーニングゼミ Lesson 7 ワークシート Lesson7 ③出る順合格問題集 大問 3	142 ～ 150	①出る順単語C 2 ②英検トレーニングゼミ Lesson 8 ワークシート Lesson 8 ③語彙・イディオム問題 500 3-1 ④長文読解問題 150 2 内容一致選択問題
64 ～ 72	①出る順熟語A 2 review ②英検トレーニングゼミ Lesson 8 ワークシート Lesson8 ③出る順合格問題集 大問 4	151 ～ 159	①出る順熟語A 2 ②英検トレーニングゼミ Lesson 9 ワークシート Lesson 9 ③語彙・イディオム問題 500 3-2 ④長文読解問題 150 2 内容一致選択問題
73 ～ 81	①出る順熟語B 2 review ②英検トレーニングゼミ Lesson 9 ワークシート Lesson9 ③出る順合格問題集 大問 4	160 ～ 168	①出る順熟語B 2 ②英検トレーニングゼミ Lesson 10 ワークシート Lesson10 ③語彙・イディオム問題 500 3-3 ④長文読解問題 150 3 模擬テスト
82 ～ 86	①出る順会話表現 2 review ②英検トレーニングゼミ Lesson 10 ワークシート Lesson10 ③出る順合格問題集 大問 5	169 ～ 174	①出る順会話表現 2 ②英検トレーニングゼミ Lesson 11 ワークシート Lesson11 ③語彙・イディオム問題 500 3-4・3-5 ④長文読解問題 150 3 模擬テスト
87	期末試験（前期）	175	期末試験（後期）

※期末試験は前期 1 回、後期 1 回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	英語Ⅱ	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1年	授 業 回 数	全175回
単 位 数	10単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

勉強は受動的にするものではなく、能動的にするものです。自らが学ぼうとする時の姿勢は、人から言われて学ぶ時よりも飛躍的な成績向上に直結します。そのため、なぜ自分が勉強をしなければならないか、そして勉強をすることによりどんなことが自分に返ってくるのかを常に考えながら能動的に学習する環境を重視しています。英検準1級等を取得することが大学進学や就職でも役立つことを理解してもらった上で、毎日の英語Ⅱの授業に積極的に参加してほしいと思います。

到達目標

当校は修業年限2年となります。1年次前期に実用技能英語検定準2級、後期に2級の取得、2年次には準1級の取得を目標とします。各級取得に向けて、英語の学習を細分化し、効率的に英語力を取得していきます。「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を学習する上で、英語Ⅱでは、前期で英検準2級、後期に英検2級で必要な文法と、「聞く」技能を習得することを目標に学習していきます。

回	内 容	回	内 容
1～9	①Evergreen 総合英語・トレーニング第1章・第2章	88～96	①Evergreen 総合英語・トレーニング第14章 ②英検2級リスニング問題 120 第1部 section1
10～18	①Evergreen 総合英語・トレーニング第3章・第4章	97～105	①Evergreen 総合英語・トレーニング第15章 ②英検2級リスニング問題 120 第1部 section2
19～27	①Evergreen 総合英語・トレーニング第5章・第6章	106～114	①Evergreen 総合英語・トレーニング第16章 ②英検2級リスニング問題 120 第1部 section3
28～36	①Evergreen 総合英語・トレーニング第7章 ②出る順合格問題集 リスニング第1部	115～123	①Evergreen 総合英語・トレーニング第17章 ②英検2級リスニング問題 120 第2部 section1
37～45	①Evergreen 総合英語・トレーニング第8章 ②出る順合格問題集 リスニング第2部	124～132	①Evergreen 総合英語・トレーニング第18章 ②英検2級リスニング問題 120 第2部 section2
46～54	①Evergreen 総合英語・トレーニング第9章 ②出る順合格問題集リスニング第3部	133～141	①Evergreen 総合英語・トレーニング第19章 ②英検2級リスニング問題 120 第2部 section3
55～63	①Evergreen 総合英語・トレーニング第10章 ②Upgrade Listening 1～6	142～150	①Evergreen 総合英語・トレーニング第20章 ②英検2級リスニング問題 120 模擬テスト1
64～72	①Evergreen 総合英語・トレーニング第11章 ②Upgrade Listening 7～12	151～159	② Evergreen 総合英語・トレーニング第21章・22章 ②英検2級リスニング問題 120 模擬テスト1
73～81	①Evergreen 総合英語・トレーニング第12章 ②Upgrade Listening 13～18	160～168	①Evergreen 総合英語・トレーニング第23章 ②英検2級リスニング問題 120 模擬テスト2
82～86	①Evergreen 総合英語・トレーニング第13章 ②Upgrade Listening 19～24	169～174	①Evergreen 総合英語・トレーニング第24章 ②英検2級リスニング問題 120 模擬テスト2
87	期末試験（前期）	175	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	現代世界経済	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

世界経済の体系や現状は似ているようで実際は異なることが特徴で、理解するのに常に難しさが伴います。この難しさを乗り越えるためには、世界の普遍的な経済体系としての市場経済を根本的に解明し、さらに各国の特有の発展パスや周辺国との関係を分析する必要があります。この授業では、市場経済の普遍性と各国経済の特殊性という一見相反する理解を基に、世界経済への理論と応用を学びます。具体的には、市場経済の下でのグローバル経済を動かす貿易や資本移動などの基本理論を把握し、日本と密接な関係を持つ主要国・地域の経済動向や政策課題について考察します。

・参考文献

内閣府 [2002-2020] 「世界経済の潮流」

野口悠紀雄 [2018] 『世界経済入門』 講談社

宮崎勇・田谷禎三 [2020] 『世界経済図説 第四版』 岩波書店

到達目標

・理論的基盤の構築：世界経済の理論、世界経済を規制する制度的な条件、さらに世界の主要国や地域の経済動向や政策的な課題への理解を深めることを目指します。

・応用可能性の拡大：日々の国際経済ニュースに触れる際、その内容を明確に理解し、議論できる能力の習得を目指します。

・実践的な応用の向上：日本、アメリカ、中国の経済関係を含む世界経済における理解度や応用可能性を基に、卒業後、日本を含む世界各地で活躍する際に、実務で実践的に応用できる知識や思考力の向上を目指します。

回	内 容	回	内 容
1	世界経済の概要	18	途上国の市場経済化：先進国と途上国の関係
2	世界経済：国の数・国土、人口・民族、GDP	19	デジタル・エコノミー：情報通信革命と物価
3	世界経済：産業構造、技術、天然資源	20	デジタル・エコノミー：プラットフォーム
4	世界経済：国民生活、国際化の軋轢	21	デジタル・エコノミー：米中の技術覇権摩擦
5	国際貿易：一般貿易。貿易収支と貿易構造	22	人口：世界人口の急増、少子高齢化
6	国際貿易：サービス収支、関税・非関税障壁	23	食料：世界の食料事情、食料消費の高度化
7	国際貿易：直接投資、WTO体制	24	エネルギー・資源：省エネ、資源貿易問題
8	国際金融：資本の流れ、金融資本市場	25	地球環境保全：広域化する環境問題
9	国際金融：金利、株価、金融派生商品	26	地球環境保全：途上国の環境問題、気候変動
10	国際金融：為替制度、IMF体制	27	地球環境保全：自然環境と生態系、SDGs と ESG
11	多極化：世界経済の再編成	28	経済危機：大恐慌、中南米諸国の危機
12	地域統合：EU、USMCA、TPP	29	経済危機：日本バブル経済、アジア通貨危機
13	貿易摩擦：貿易・経済摩擦、米中貿易摩擦	30	経済危機：南欧諸国の財政危機、中国の債務
14	指令経済：社会主義と資本主義、ソ連の解体	31	構造変化：市場のグローバルイゼーション
15	途上国の市場経済化：中国、インドの発展	32	構造変化：政治の一国体制
16	前期のまとめ（世界経済の動向）	33	構造変化：市場と政治における矛盾
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ（世界経済の課題）
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	経済政策	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

この授業では、基本的な知識を学ぶだけでなく、実際の経済政策の動きや期待される効果、限界について論理的に理解し考察することを目指します。まず、経済政策の本質、必要性、評価に関して説明します。さらに、①マクロ経済政策（財政政策と金融政策）、②所得税制度や法人税制度、③社会政策（働き方改革の動向など）について、それぞれの実態や課題を具体的に分析します。特に、政策金融改革や社会保障構造改革など、日本で実施されている経済政策について、経済理論との関連を踏まえ、実践的な検証を進めます。

・参考文献

飯田泰之 [2014] 『図解 ゼロからわかる経済政策 「今の日本」「これからの日本」が読める本』 KADOKAWA
 経済産業省 [2009-2020] 「通商白書」
 代田純・小西宏美・深見泰孝 [2021] 『ファイナンス入門』 ミネルヴァ書房
 瀧澤弘和他編 [2016] 『経済政策論—日本と世界が直面する諸課題』 慶應義塾大学出版会
 鶴光太郎・前田佐恵子・村田啓子 [2019] 『日本経済のマクロ分析—低温経済のパズルを解く』 日経BPM
 藤川清史他編 [2020] 『経済政策入門』 法律文化社

到達目標

- ・理論への理解：経済政策が実際にどのように経済学の理論と関連しているかを理解し、その能力を身につけることを目指します。
- ・考察力の強化：自ら経済政策の課題を見つけ出し、それに対する対策を考える能力や、政策についての議論を客観的に評価する力を育成することを目指します。
- ・実務への応用：税制や労働政策など具体的な政策や、政府の経済政策のあり方と企業活動への影響に関する学びを基に、卒業後に経済政策と実務とのつながりを理解できるようになることを目指します。

回	内 容	回	内 容
1	経済指標と経済政策の目標	18	労働市場政策：長時間労働、働き方改革
2	人口政策：人口減少社会と少子化対策	19	労働市場政策：外国人労働者の受入動向
3	人口政策：高齢化と年金問題	20	労働市場政策：技能実習制度
4	社会保障政策：社会保険	21	財政政策：経済安定化政策
5	社会保障政策：公的扶助	22	財政政策：所得再分配政策
6	社会保障政策：ベーシックインカムの再考	23	財政政策：日本の税制の仕組み
7	地域政策：地方消滅と市町村の合併	24	経済成長政策：実質 GDP の推移
8	地域政策：二重行政と市町村の合併	25	経済成長政策：技術進歩の促進
9	地域政策：コンパクトシティ	26	金融政策：中央銀行の役割、金利政策
10	農業政策：食料自給率	27	金融政策：量的緩和
11	農業政策：産物貿易自由化	28	貿易政策：国際経済取引と国際収支
12	農業政策：日本農業のポテンシャル	29	貿易政策：手段と効果
13	労働市場政策：労働市場、最低賃金	30	貿易政策：貿易協定
14	労働市場政策：日本的雇用システム	31	貿易政策：国際通貨システムと為替レート
15	労働市場政策：労働市場改革の方向性	32	地球温暖化防止政策：気候変動
16	前期のまとめ（経済政策の必要性）	33	地球温暖化防止政策：SDGs
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ（経済政策の拡大）
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	金融論	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
日本の金融はどのような人々や企業によって担われ、それはどのように機能し、私たちの生活とどのようなかわりを持っているかを学ぶ。			
到達目標			
金利、証券市場、為替相場などの動向を基本的に理解し、企業の資金運用の仕組みなど企業人・社会人としての基本知識を身につける。			

講義計画

回	内 容	回	内 容
1	金融論を学ぶ意義	18	金融機関と金融仲介 公的金融仲介機構
2	金融リテラシー 家計管理とライフプランニング	19	金融機関と金融仲介 金融仲介機関の機能 1
3	金融リテラシー 使う	20	金融機関と金融仲介 金融仲介機関の機能 2
4	金融リテラシー 備える	21	金融機関と金融仲介 金融仲介機関と事業統治
5	金融リテラシー 貯める、増やす 1	22	資金の循環と金融市場-資金の循環と金融機関
6	金融リテラシー 貯める、増やす 2	23	資金の循環と金融市場-狭義の市場取引と相対取引
7	金融リテラシー 貯める、増やす 3	24	資金の循環と金融市場-短期金融市場
8	金融リテラシー 借りる	25	資金の循環と金融市場-資本市場 1
9	金融リテラシー 金融トラブルとまとめ	26	資金の循環と金融市場-資本市場 2
10	貨幣と日本の決済システム 交換経済と貨幣	27	金利と資産の価格 — 金利とは
11	銀行制度と決済システム	28	金利と資産の価格 — 金利の決定 1
12	貨幣創造機関としての銀行	29	金利と資産の価格 — 金利の決定 2
13	資金の貸借と金融 — 貨幣の機能と金融	30	金利と資産の価格 — 資産価格と金利
14	資金の貸借と金融 — 資金の調達と運用	31	デリバティブとリスクの移転—金利スワップ
15	金融機関と金融仲介 — 日本の金融機関	32	デリバティブとリスクの移転—先物取引
16	まとめ 1	33	デリバティブとリスクの移転—オプション
17	期末試験（前期）	34	まとめ 2
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	企業組織	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
組織の歴史と、現状の組織の在り方を理解し、組織図を作る。 組織内の人材に対する評価システムを考えるうえで必要な知識や方法を身に付ける。			
到達目標			
自分自身で組織を作り上げ、その組織にあった評価システムを考えられるようにする。			
回	内 容	回	内 容
1	講義の全体像、講義の準備、Teams の使い方	18	マクロ組織論①：コンティンジェンシー理論
2	経営観論①：官僚制	19	マクロ組織論②：資源依存理論
3	経営観論②：科学的管理法	20	マクロ組織論③：取引コスト理論
4	経営観論③：管理過程論	21	マクロ組織論④：個体群生態学
5	経営観論④：企業文化	22	モチベーション①：人間関係論
6	意思決定①：限定された合理性	23	モチベーション②：期待理論
7	意思決定②：組織均衡	24	モチベーション③：内発的動機付け
8	意思決定③：組織学習	25	モチベーション④：人間資源アプローチ
9	意思決定④：ゴミ箱モデル	26	モチベーション⑤：人間関係論
10	組織デザイン①：職能別組織	27	モチベーション⑥：評価制度を考える
11	組織デザイン②：特殊会社	28	リーダー①：リーダーシップ論
12	組織デザイン③：事業部制	29	リーダー②：リーダーシップは条件即答
13	組織デザイン④：マトリックス組織	30	リーダー③：管理者行動論
14	他部署とのつながり	31	リーダー④：集団残慮
15	組織図をつくろう①	32	未来の会社をイメージしよう①：組織と評価
16	組織図をつくろう②	33	未来の会社をイメージしよう②：発表
17	期末試験（前期）	34	未来の会社をイメージしよう③：発表
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	財務戦略・財務管理	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
企業価値の向上は企業にとっての最終目標であり、これを資金のながれからどのように戦略し、管理するかを学ぶ			
到達目標			
資金・資産の運用の基本、資産の構成、財務と経理の違い、資本コストの基礎などを理解し、企業で活かせる即戦力を培う。			

講義計画

回	内 容	回	内 容
1	財務戦略・財務管理を学ぶ意義	18	経常利益の概念
2	会計と財務の違い 1	19	加重平均資本コスト WACC
3	会計と財務の違い 2	20	税引き後営業利益 NOPAT
4	財務会計と管理会計	21	無利子負債
5	資金調達の方法	22	EVA スプレッド
6	売掛金と買掛金	23	投資家の信頼
7	固定資産・損益計算書・キャッシュフロー計算書	24	現在価値の計算
8	三つの意思決定にかかわること	25	リスク認識と割引率
9	期待収益率	26	会社の値段
10	負債コスト、株主資本コスト	27	企業価値の計算
11	負債コスト、株主資本コスト、経常利益の概念	28	投資の判断基準
12	ハイリスクハイリターン	29	IRR 法
13	CAPM 理論	30	お金の借り方返し方 リバレッジ
14	負債コスト	31	お金の借り方返し方 最適な資本構成
15	株主資本コスト	32	お金の借り方返し方 格付けと WACC の関係
16	まとめ 1	33	自社株取得、企業のライフサイクルと分配
17	期末試験（前期）	34	まとめ 2
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	生産管理・販売管理	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

「ビジョンは人生のミッション（自分に課す使命）」

「企業戦略・事業計画」では「WHY?」「WHAT?」を追い求め、自らのビジョンを立て、さらに実現への10年間で「**ビジョン33**」として、具体的な「挑戦目標」と「行動計画」を立案しました。

しかし、それはビジョナリーとしては「**絵に描いた餅**」です。さらに、「**挑戦目標**」実現のために「**HOW?**」を学ぶ必要があります。ユダヤの知恵と良き経営を学び、模倣し改善し、自らのものとするための講義です。

到達目標

1. 世界の優れた経営に学び、これからの実践の準備をする
2. ビジョン実現の**道しるべ**となり、**支え**となる知識とWisdomに気づく
3. 毎日の良き習慣を通じて「**無意識の力（潜在能力）**」を育てながら活用する

回	内 容	回	内 容
1	1年間の授業のふり返り、講義の全体像	18	④ ムダの原因（真因）をつかむ
2	「志（ビジョン）」のもち方と磨き方	19	3. 資金戦略と財務機能
3	「理念」とは「ぶれない枠組み」	20	① ムダな資産がムダな仕事をつくる
4	「戦略」とは、人生計画の道すじ	21	② 在庫・設備・人員に対する考え方がムダ
5	会社に働き、スタートアップに必要なこと	22	③ 競争力の基本はローコスト経営（儉約）
6	見えない力が組織・会社の優劣を決める	23	④ 無借金経営：自己資本100%の経営基盤
7	1. 販売戦略とマーケティング	24	4. 経営戦略とマネジメント
8	① お客さまはモノでなく「価値」を買う	25	② 人作り、しくみ作り、リーダー作り
9	② ITを活用した顧客（CRM）戦略	26	③ 資産は少なければ少ないほど良い
10	③ 「市場シェア」より「顧客シェア」	27	③ 「リンゲルマンの法則」
11	④ お客さまの生活視点のマーケティング	28	④ 効果・効率を妨げる「ピーターの法則」
12	④ 商売の分類：「見込み商売」「受注商売」	29	⑤ 敵は専門分化と縄張りと言僚主義
13	2. 製造戦略と調達戦略	30	5. ビジョン＝事業・組織の定義
14	① 価値＝品質÷価格、品質がブランド	31	6. 優れたリーダーと企業文化から学ぶ 1
15	② 時間の浪費を生み出す「ムダ」の正体	32	7. 優れたリーダーと企業文化から学ぶ 2
16	③ トヨタ生産システムの分析と改良	33	ユダヤの知恵に学ぶ
17	期末試験（前期）	34	「知識創造企業」をめざす
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	ビジネス文書	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

ビジネスパーソンにとって、読み易く理解し易い適切なビジネス文書を作成できることは、ビジネスの成功要因の1つです。その力を身に付けるために、この「ビジネス文書」を学びます。内容としては、日本での基本的なビジネス会話やビジネス用語・表現を学びながら、ビジネス文書を学びます。実際の就職活動に必要な文書（履歴書やビジネスメール）を作成します。更には、日本で就職後に必要となる、実践的社内&社外ビジネスメールの内容や構成を学び、その作成演習も豊富に経験します。

到達目標

1年間の「ビジネス文書」授業のゴールは、「生徒がPCを使って日本語のビジネス文書（履歴書&ビジネスメール）を作成できる」ことです。この授業を通じて、日本&国際的ビジネス環境や情報を理解し、日本語独特のビジネス汎用用語や表現が理解できるようになります。実際に、PCを使って、自分の思いや考えを適切にメールに反映する能力を養います。中長期的には、この授業を通じて、言語、人種、ビジネス種類などが異なっても、共通しているビジネス文書の考え方が身につけている事を期待します。更に、この授業で、複眼的思考や国際的教養も身につけ、将来、生徒達が日本以外の国で働くようになって、引き続き社会貢献できるようになる事を期待します。

回	内 容	回	内 容
1	ビジネスと文書	18	ビジネスメールの基本練習
2	夢と目標を書く（業種・職種）	19	ビジネス文書の5つの成功要因
3	履歴書①やりたい仕事と志望動機	20	メール①（目的、種類、Audience analysis）
4	履歴書②自分の履歴と自己PR	21	メール②（スタイルガイド、Readability）
5	履歴書③履歴書の構成と情報整理 1	22	メール③（ビジネスメールの汎用表現と件名）
6	履歴書④履歴書の構成と情報整理 2	23	メール④（社内ビジネスメール）
7	履歴書⑤自己PR作成 1	24	メール⑤（社内メールと社外メール）
8	履歴書⑥自己PR作成 2	25	メール⑥まとめ（NGメールとOKメール）
9	履歴書⑦志望動機&志望理由 1	26	実践①（社外問い合わせメールの特長と作成）
10	履歴書⑧志望動機&志望理由 2	27	実践②（社外確認メールの特長と作成）
11	履歴書⑨まとめ	28	実践③（社外通知メールの特長と作成）
12	文書の構成要素①（標準的日本語表記）	29	実践④（社外案内メールの特長と作成）
13	文書の構成要素②（クッション言葉と敬語）	30	実践⑤（社外受領メールの特長と作成）
14	ビジネス会話と挨拶	31	実践⑥（社外お礼メールの特長と作成）
15	ビジネス会話と電話	32	実践⑦（ビジネス文書&メールの読解&要約）
16	ビジネス文書&会話と前期試験練習問題	33	実践⑧（ビジネスメールの汎用表現まとめ）
17	期末試験（前期）	34	ビジネスメールのまとめと後期試験練習問題
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	産業各論Ⅱ	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全35回
単 位 数	2単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

AIやIoT、ビッグデータの一般化が進む中、産業界では大きな変化が起こっています。これにより、学生だけでなく多くの人々が、どの産業でどんな仕事を選ぶべきかについて不安や疑問を抱えています。技術の進歩により、減少や消滅する職種が増える中で、「どこで」働くかではなく、「どのように」働くかが重要になっています。この視点を踏まえて、本授業ではまず「産業各論Ⅰ」の続きとして、第二次産業に焦点を当てて学びます。また、様々な産業の全体像を把握することを目標とします。さらに、各産業を正しく理解し、効果的なワーク・ルールを身に付けることも目指します。これらを通して、どのような産業においても、自分の知識やスキルをどのように活用できるかを明確に理解するビジネスパーソンを育成することが目標です。

・参考文献

十名直喜 [2017] 『現代産業論 ものづくりを活かす企業・社会・地域』 水曜社
津崎克彦編著 [2018] 『産業構造の変化と外国人労働者——労働現場の実態と歴史的視点』 明石書店
深尾京司 [2009] 『マクロ経済と産業構造（バブルデフレ期の日本経済と経済政策）』 慶應義塾大学出版会
宮里邦雄・川人博・井上幸夫 [2011] 『就活前に読む 会社の現実とワークルール』 旬報社

到達目標

・どの産業でも自分らしく働く人材：皆さんが卒業後、日本で就職するか母国で就職するか、どの産業で働かなど、これからの仕事には多くの不確定性があると思います。同時に、就職後も産業構造の変化によって異なる産業への転職も考えられます。そのような状況では、特定の産業に限定せず、どの産業でも働ける柔軟な思考と、自分の知識やスキルを活かせる変換力が重要です。この授業では、産業そのものへの理解を基礎にしながら、どこでも自分らしく働ける人材を目指します。

回	内 容	回	内 容
1	産業各論Ⅰ復習、Ⅱの進め方	18	工場立地とサプライチェーン
2	労働安全衛生管理とメンタルヘルスケア	19	ものづくり支援
3	製造業を取り巻く環境の変化	20	産業の財務管理と資金調達
4	第二次産業：食品・水産	21	産業の経営戦略と意思決定
5	第二次産業：機械	22	産業の組織変革とリストラクチャリング
6	第二次産業：プラント	23	産業のリスク管理と危機管理
7	第二次産業：化学製品	24	イノベーションと起業家精神の促進
8	第二次産業：家電・携帯電話	25	ビジネスと人権
9	第二次産業：電気機器・電子部品	26	外国人労働者と産業構造の変化
10	第二次産業：製薬・化粧品	27	外国人労働者が働く現場
11	第二次産業：医療機器・介護用品	28	外国人労働者と日本の社会構造の変化
12	第二次産業：生活用品	29	人の移動と産業をめぐる時空間の変容
13	第二次産業：建設・住宅	30	産業の未来とトレンド予測
14	第二次産業：自動車・自動車部品	31	データ駆動型ビジネス戦略
15	第二次産業：運送用機器	32	人工知能（AI）と労働市場の変化
16	前期のまとめ	33	DXと業界変革
17	期末試験（前期）	34	後期のまとめ
		35	期末試験（後期）

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

※いずれかの回に、職業人を招いて講話を伺う場合がある。※工場見学は、社会情勢と受入先企業の都合等によって、回が前後または実施できない場合がある。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	プレゼンテーション	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全70回
単 位 数	4単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

自分の考えや提案を発表するためにプレゼンテーションの手法を講義と実技で習得していきます。どのようなプレゼンテーションが効果的なのかを実践で学びます。レジュメの作成、パワーポイントでの資料作成、発表、聞き手となったときの評価の方法を学びます。前期は主に就職活動に役立つテーマを扱い、後期は経済経営の教科での学習内容をアウトプットするためのプレゼンテーションを実施します。また、毎回発表に対しフィードバックすることで、次のプレゼンテーションに活かせるよう授業を進めていきます。いろいろな側面から効果的なプレゼンテーションの技術を学び向上させていく授業内容になっています。

到達目標

いろいろな対象に対して、自分の考えや提案を十分に伝えることができ、社会人となったときに即戦力となる発表の技術とコミュニケーション力を身につけていきましょう。

回	内 容	回	内 容
1	プレゼンテーションとは 自分の考えを相手に伝える手法について学ぶ	36	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に持ってきてほしいもの」 学生発表⑥
2	良いプレゼンテーション・悪いプレゼンテーションについて 作り手からの視線ではなく受け手からの視線で良いプレゼンテーションについて考える	37	評価シート記入 それぞれの国の商品の説明を聞いて、利用してみたいもの、または使ってみてみたいものについて理由と共に記入
3	評価シート作成 豊かな表現を文字で表し、評価	38	「日本について」情報検索とレジュメ作成 母国の人に実際に見た日本について発表
4	パワーポイントの使い方① パワーポイントの機能を実際に体験	39	「日本について」情報検索とレジュメ作成
5	パワーポイントの使い方② パワーポイントの機能を生かした資料作り	40	「日本について」パワーポイント資料作成①
6	「自己紹介」 講師発表と評価 講師による発表から手法を学び、評価の仕方を学ぶ	41	「日本について」パワーポイント資料作成②
7	「自己紹介」 レジュメ作成 自己紹介の基本項目を作文	42	「日本について」学生発表① それぞれの発表と、その評価
8	「自己紹介」 資料作成 レジュメを基にパワーポイントの資料作成	43	「日本について」学生発表② それぞれの発表と、その評価
9	「自己紹介」 学生発表① 作成したレジュメを基に、発表	44	「日本について」学生発表③ それぞれの発表と、その評価
10	「自己紹介」 学生発表②	45	「日本について」学生発表④ それぞれの発表と、その評価
11	「自己紹介」 学生発表③	46	「日本について」学生発表⑤ それぞれの発表と、その評価
12	「自己紹介」 学生発表④	47	「日本について」学生発表⑥ それぞれの発表と、その評価
13	「自己紹介」 学生発表⑤	48	「世界の経済について」 母国の経済について調査①
14	「自己紹介」 学生発表⑥	49	「世界の経済について」 母国の経済について調査②

15	評価シート 発表の中で印象的だったものについて記入	50	「世界の経済について」 母国と世界の経済の違いについて調査 レジュメ作成①
16	HPから学ぶ企業 企業から発信する情報をキャッチして、企業を知る	51	「世界の経済について」 母国と日本の経済の違いについて調査 レジュメ作成②
17	「企業研究」 レジュメ作成 ある企業について調査し自分の目線から見た企業について発表	52	「世界の経済について」 パワーポイントの資料作成①
18	「企業研究」 資料作成 パワーポイントの資料作成	53	「世界の経済について」 パワーポイントの資料作成②
19	「企業研究」 学生発表① それぞれの発表と、その評価	54	「世界の経済について」 学生発表① それぞれの発表と、その評価
20	「企業研究」 学生発表② それぞれの発表と、その評価	55	「世界の経済について」 学生発表② それぞれの発表と、その評価
21	「企業研究」 学生発表③ それぞれの発表と、その評価	56	「世界の経済について」 学生発表③ それぞれの発表と、その評価
22	「企業研究」 学生発表④ それぞれの発表と、その評価	57	「世界の経済について」 学生発表④ それぞれの発表と、その評価
23	「企業研究」 学生発表⑤ それぞれの発表と、その評価	58	「世界の経済について」 学生発表⑤ それぞれの発表と、その評価
24	「企業研究」 学生発表⑥ それぞれの発表と、その評価	59	「世界の経済について」 学生発表⑥ それぞれの発表と、その評価
25	評価シート 今回の発表で印象的だったものについて	60	「自由テーマ」 レジュメ作成①
26	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に 持ってきたいもの」 資料作成 母国にある商品（サービス・制度）調査①	61	「自由テーマ」 レジュメ作成②
27	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に 持ってきたいもの」 資料作成 母国にある商品（サービス・制度）調査②	62	「自由テーマ」 パワーポイントの資料作成①
28	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に 持ってきたいもの」 レジュメとパワーポイント 資料作成①	63	「自由テーマ」 パワーポイントの資料作成②
29	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に 持ってきたいもの」 レジュメとパワーポイント 資料作成②	64	「自由テーマ」 パワーポイントの資料作成③
30	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に 持ってきたいもの」 レジュメとパワーポイント 資料作成③	65	「自由テーマ」 学生発表①期末試験
31	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に 持ってきたいもの」 学生発表①期末試験	66	「自由テーマ」 学生発表②期末試験
32	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に 持ってきたいもの」 学生発表②期末試験	67	「自由テーマ」 学生発表③期末試験
33	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に 持ってきたいもの」 学生発表③期末試験	68	「自由テーマ」 学生発表④期末試験
34	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に 持ってきたいもの」 学生発表④期末試験	69	「自由テーマ」 学生発表⑤期末試験
35	「あなたの国の商品（サービス・制度）で日本に 持ってきたいもの」 学生発表⑤期末試験	70	「自由テーマ」 学生発表⑥期末試験

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授業の方法	実技
授業科目名	IT実習Ⅱ	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全175回
単 位 数	5単位	授 業 時 間	1コマ/50分
授業科目の目的・内容			
<p>●企業に入社した際に必要なMS OfficeのExcel、Word、PowerPointのスキルを習得する</p> <p>Word : 企画書、会議資料の作成など (それに付随する書式などの書き方の指導)</p> <p>Excel : 見積書、会議資料の作成など (それに付随する書式などの書き方の指導)</p> <p>: 関数を理解し、使えるようになる</p> <p>PowerPoint : 適切なプレゼンテーション資料の作成など (それに付随する書式などの書き方の指導)</p>			
到達目標			
<p>●企業に入社した際に必要なMS Officeの知識・技能の習得</p> <p>MOS (Microsoft Office Specialist) を受検した際に合格ができるような知識・技能を習得する</p> <p>Excel (一般レベル)</p> <p>Word (一般レベル)</p> <p>PowerPoint</p>			
回	内 容	回	内 容
01～04回	Wordの操作 (ファイル)	088～092回	PowerPointの操作 (アニメーション)
05～09回	Wordの操作 (ホーム)	093～096回	PowerPointの操作 (スライドショー)
10～13回	Wordの操作 (挿入)	097～100回	PowerPointの操作 (発表)
14～18回	Wordの操作 (描画)	101～108回	Excelの操作 (日付の関数)
19～23回	Wordの操作 (デザイン)	109～113回	Excelの操作 (文字列の関数)
24～28回	Wordの操作 (レイアウト)	114～118回	Excelの操作 (文字列の関数)
29～33回	Wordの操作 (参考資料)	119～122回	Excelの操作 (数学の関数)
34～43回	Wordの操作 (差し込み文書①)	123～127回	Excelの操作 (数学の関数)
44～48回	Wordの操作 (差し込み文書②)	128～132回	Excelの操作 (統計の関数)
49～53回	Wordの操作 (校閲・表示)	133～137回	Excelの操作 (統計の関数)
54～58回	PowerPointの操作 (ファイル)	138～142回	Excelの操作 (データベースの関数)
59～63回	PowerPointの操作 (ホーム)	143～146回	Excelの操作 (データベースの関数)
64～72回	PowerPointの操作 (挿入)	147～151回	Excelの操作 (マクロ)
73～77回	PowerPointの操作 (描画)	152～156回	Excelの操作 (マクロ)
78～82回	PowerPointの操作 (デザイン)	157～161回	Excelの操作 (グラフとデータ比較)
83～86回	PowerPointの操作 (画面切り替え)	162～166回	Excelの操作 (グラフとデータ比較)
87回	期末試験 (前期)	167～174回	Excelの操作 (グラフとデータ比較)
		175回	期末試験 (後期)

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	英語Ⅲ	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2年	授 業 回 数	全175回
単 位 数	10単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

勉強は受動的にするものではなく、能動的にするものです。自らが学ぼうとする時の姿勢は、人から言われて学ぶ時よりも飛躍的な成績向上に直結します。そのため、なぜ自分が勉強をしなければならないか、そして勉強をすることによりどんなことが自分に返ってくるのかを常に考えながら能動的に学習する環境を重視しています。英検準1級等を取得することが大学進学や就職でも役立つことを理解してもらった上で、毎日の英語Ⅲの授業に積極的に参加してほしいと思います。

到達目標

当校は修業年限2年となります。1年次前期に実用技能英語検定準2級、後期に2級の取得、2年次には準1級の取得を目標とします。各級取得に向けて、英語の学習を細分化し、効率的に英語力を取得していきます。「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を学習する上で、英語Ⅲでは、前・後期を通して英検準1級に必要な「読む」「書く」技能を習得することを目標に学習していきます。

回	内 容	回	内 容
1-9	①出る順単語A ②英検準1級リーディング問題1-3 ③英検準1級単語・熟語問題1-1 1-2 ④英検準1級ライティングchapter1	88 - 96	①DU03.0 section1-5 ②英検準1級リーディング問題31-33 ③英検準1級単語・熟語問題2-4 ④英検準1級ライティングchapter2-10
10 - 18	①出る順単語A ②英検準1級リーディング問題4-6 ③英検準1級単語・熟語問題2-1 ④英検準1級ライティングchapter2-1	97 - 105	①DU03.0 section6-10②英検準1級リーディング問題34-36 ③英検準1級単語・熟語問題2-4 ④英検準1級ライティングchapter3-1
19 - 27	①出る順単語B ②英検準1級リーディング問題7-9 ③英検準1級単語・熟語問題2-1 ④英検準1級ライティングchapter2-2	106 - 114	①DU03.0 section11-15②英検準1級リーディング問題37-39 ③英検準1級単語・熟語問題2-4 ④英検準1級ライティングchapter3-1
28 - 36	①出る順単語B ②英検準1級リーディング問題10-12 ③英検準1級単語・熟語問題2-1 ④英検準1級ライティングchapter2-3	115 - 123	①DU03.0 section16-20②英検準1級リーディング問題40-41 ③英検準1級単語・熟語問題3-1 ④英検準1級ライティングchapter3-2
37 - 45	①出る順単語C ②英検準1級リーディング問題13-15 ③英検準1級単語・熟語問題2-2 ④英検準1級ライティングchapter2-4	124 - 132	①DU03.0 section21-25②英検準1級リーディング問題 review ③英検準1級単語・熟語問題3-2④英検準1級ライティングchapter3-2
46 - 54	①出る順単語C ②英検準1級リーディング問題16-18 ③英検準1級単語・熟語問題2-2 ④英検準1級ライティングchapter2-5	133 - 141	①DU03.0 section26-30②英検準1級リーディング問題 review ③英検準1級単語・熟語問題3-3④英検準1級ライティングchapter3-3
55 - 63	①出る順単語C ②英検準1級リーディング問題19-21 ③英検準1級単語・熟語問題2-2 ④英検準1級ライティングchapter2-6	142 - 150	①DU03.0 section31-35②英検準1級リーディング問題 review ③英検準1級単語・熟語問題3-4④英検準1級ライティングchapter3-3
64- 72	①出る順単語C ②英検準1級リーディング問題22-24 ③英検準1級単語・熟語問題2-3 ④英検準1級ライティングchapter2-7	151- 159	①DU03.0 section31-35 ②英検準1級集中ゼミ 1-8th day

73-81	①出る順単語C ②英検準1級リーディング問題 25-27 ③英検準1級単語・熟語問題 2-3 ④英検準1級ライティング chapter2-8	160-168	①DU03.0 section41-45 ②英検準1級集中ゼミ 9-16th day
82-86	①出る順単語C ②英検準1級リーディング問題 28-30 ③英検準1級単語・熟語問題 2-3 ④英検準1級ライティング chapter2-9	169-174	①DU03.0 section1-45 review ②英検準1級集中ゼミ 17-25th day
87	前期試験	175	後期試験

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	英語IV	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2年	授 業 回 数	全175回
単 位 数	10単位	授 業 時 間	1コマ/50分

授業科目の目的・内容

勉強は受動的にするものではなく、能動的にするものです。自らが学ぼうとする時の姿勢は、人から言われて学ぶ時よりも飛躍的な成績向上に直結します。そのため、なぜ自分が勉強をしなければならないか、そして勉強をすることによりどんなことが自分に返ってくるのかを常に考えながら能動的に学習する環境を重視しています。英検準1級等を取得することが大学進学や就職でも役立つことを理解してもらった上で、毎日の英語IVの授業に積極的に参加してほしいと思います。

到達目標

当校は修業年限2年となります。1年次前期に実用技能英語検定準2級、後期に2級の取得、2年次には準1級の取得を目標とします。各級取得に向けて、英語の学習を細分化し、効率的に英語力を取得していきます。「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を学習する上で、英語IVでは、前・後期を通して英検準1級に必要な文法と、「聞く」技能を習得することを目標に学習していきます。

回	内 容	回	内 容
1-9	①Evergreen トレーニング review 第1章・第2章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter1	88- 96	①Evergreen トレーニング review 第14章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter3-4
10- 18	①Evergreen トレーニング review 第3章・第4章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter2-1	97- 105	①Evergreen トレーニング review 第15章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter3-5
19- 27	①Evergreen トレーニング review 第5章・第6章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter2-2	106- 114	①Evergreen トレーニング review 第16章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter4-1
28- 36	①Evergreen トレーニング review 第7章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter2-3	115- 123	①Evergreen トレーニング review 第17章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter4-2
37- 45	①Evergreen トレーニング review 第8章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter2-4	124- 132	①Evergreen トレーニング review 第18章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter4-3
46- 54	①Evergreen トレーニング review 第9章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter2-5	133- 141	①Evergreen トレーニング review 第19章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter4-4
55- 63	①Evergreen トレーニング review 第10章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter2-6	142- 150	①Evergreen トレーニング review 第20章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter4-5
64- 72	①Evergreen トレーニング review 第11章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter3-1	151- 159	①Evergreen トレーニング review 第21・22章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter4-6
73- 81	①Evergreen トレーニング review 第12章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter3-2	160- 168	①Evergreen トレーニング review 第23章 ②英検準1級リスニング問題 150 模擬テスト第1回
82- 86	①Evergreen トレーニング review 第13章 ②英検準1級リスニング問題 150 chapter3-3	169- 174	①Evergreen トレーニング review 第24章 ②英検準1級リスニング問題 150 模擬テスト第2回
87	前期試験	175	後期試験

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

学校法人愛光学園山手ビジネスカレッジ

2024年度 授業概要 (シラバス)

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	語学日本語 I	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1 学年	授 業 回 数	全 1 7 5 回
単 位 数	1 0 単位	授 業 時 間	1 コマ / 5 0 分

講義計画

回	内 容	時間数
第 1 回～第 4 回	字形指導	4 回
第 5 回～第 3 4 回	日本語総まとめ 漢字語彙 N 3 復習	3 0 回
第 3 5 回～第 5 0 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 1 週目	1 6 回
第 5 1 回～第 6 6 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 2 週目	1 6 回
第 6 7 回～第 8 2 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 3 週目	1 6 回
第 8 3 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 4 週目	1 回
第 8 4 回～第 8 5 回	期末試験 (前期)	2 回
第 8 6 回～第 1 0 0 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 4 週目	1 5 回
第 1 0 1 回～第 1 1 6 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 5 週目	1 6 回
第 1 1 7 回～第 1 3 2 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 6 週目	1 6 回
第 1 3 3 回～第 1 4 8 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 7 週目	1 6 回
第 1 4 9 回～第 1 6 4 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 8 週目	1 6 回
第 1 6 5 回～第 1 7 3 回	N 1 日本語総まとめ 漢字語彙 1 週目	9 回
第 1 7 4 回～第 1 7 5 回	期末試験 (後期)	2 回
第 回～第 回		回
第 回～第 回		回
第 回～第 回		回
第 回～第 回		回

※期末試験は前期 1 回、後期 1 回とする。

学校法人愛光学園山手ビジネスカレッジ

2024年度 授業概要 (シラバス)

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	語学日本語Ⅱ	授 業 期	前後期
履 修 学 年	1学年	授 業 回 数	全175回
単 位 数	10単位	授 業 時 間	1コマ/50分

講義計画

回	内 容	時間数
第 1回～第 4回	字形指導	4回
第 5回～第 34回	日本語総まとめ 文法 N3復習	30回
第 35回～第 50回	N2日本語総まとめ 文法 1週目	16回
第 51回～第 66回	N2日本語総まとめ 文法 2週目	16回
第 67回～第 82回	N2日本語総まとめ 文法 3週目	16回
第 83回	N2日本語総まとめ 文法 4週目	1回
第 84回～第 85回	期末試験 (前期)	2回
第 86回～第 100回	N2日本語総まとめ 文法 4週目	15回
第 101回～第 116回	N2日本語総まとめ 文法 5週目	16回
第 117回～第 132回	N2日本語総まとめ 文法 6週目	16回
第 133回～第 148回	N2日本語総まとめ 文法 7週目	16回
第 149回～第 164回	N2日本語総まとめ 文法 8週目	16回
第 165回～第 173回	N1日本語総まとめ 文法 1週目	9回
第 174回～第 175回	期末試験 (後期)	2回
第 回～第 回		回

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

学校法人愛光学園山手ビジネスカレッジ

2024年度 授業概要 (シラバス)

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	語学日本語Ⅲ	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全175回
単 位 数	10単位	授 業 時 間	1コマ/50分

講義計画

回	内 容	時間数
第 1 回～第 4 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 5 週目	4 回
第 5 回～第 2 0 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 6 週目	1 6 回
第 2 1 回～第 3 6 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 7 週目	1 6 回
第 3 7 回～第 5 2 回	N 2 日本語総まとめ 漢字語彙 8 週目	1 6 回
第 5 3 回～第 6 8 回	N 1 日本語総まとめ 漢字語彙 1 週目	1 6 回
第 6 9 回～第 7 9 回	N 1 日本語総まとめ 漢字語彙 2 週目	1 1 回
第 8 0 回～第 8 3 回	前期試験前復習	4 回
第 8 4 回～第 8 5 回	期末試験 (前期)	2 回
第 8 6 回～第 9 1 回	N 1 日本語総まとめ 漢字語彙 2 週目	5 回
第 9 2 回～第 1 0 7 回	N 1 日本語総まとめ 漢字語彙 3 週目	1 6 回
第 1 0 8 回～第 1 2 3 回	N 1 日本語総まとめ 漢字語彙 4 週目	1 6 回
第 1 2 4 回～第 1 3 9 回	N 1 日本語総まとめ 漢字語彙 5 週目	1 6 回
第 1 4 0 回～第 1 5 5 回	N 1 日本語総まとめ 漢字語彙 6 週目	1 6 回
第 1 5 6 回～第 1 6 9 回	N 1 日本語総まとめ 漢字語彙 7 週目	1 4 回
第 1 7 0 回～第 1 7 3 回	後期試験前復習	4 回
第 1 7 4 回～第 1 7 5 回	期末試験 (後期)	2 回
第 回～第 回		回
第 回～第 回		回
第 回～第 回		回

※期末試験は前期1回、後期1回とする。

学校法人愛光学園山手ビジネスカレッジ

2024年度 授業概要 (シラバス)

年 度	2024年度	授 業 の 方 法	講義
授 業 科 目 名	語学日本語IV	授 業 期	前後期
履 修 学 年	2学年	授 業 回 数	全175回
単 位 数	10単位	授 業 時 間	1コマ/50分

講義計画

回	内 容	時間数
第 1 回～第 4 回	N 2 日本語総まとめ 文法 5 週目	4 回
第 5 回～第 2 0 回	N 2 日本語総まとめ 文法 6 週目	1 6 回
第 2 1 回～第 3 6 回	N 2 日本語総まとめ 文法 7 週目	1 6 回
第 3 7 回～第 5 2 回	N 2 日本語総まとめ 文法 8 週目	1 6 回
第 5 3 回～第 6 8 回	N 1 日本語総まとめ 文法 1 週目	1 6 回
第 6 9 回～第 7 9 回	N 1 日本語総まとめ 文法 2 週目	1 1 回
第 8 0 回～第 8 3 回	前期試験前復習	4 回
第 8 4 回～第 8 5 回	期末試験 (前期)	2 回
第 8 6 回～第 9 1 回	N 1 日本語総まとめ 文法 2 週目	5 回
第 9 2 回～第 1 0 7 回	N 1 日本語総まとめ 文法 3 週目	1 6 回
第 1 0 8 回～第 1 2 3 回	N 1 日本語総まとめ 文法 4 週目	1 6 回
第 1 2 4 回～第 1 3 9 回	N 1 日本語総まとめ 文法 5 週目	1 6 回
第 1 4 0 回～第 1 5 5 回	N 1 日本語総まとめ 文法 6 週目	1 6 回
第 1 5 6 回～第 1 6 9 回	N 1 日本語総まとめ 文法 7 週目	1 4 回
第 1 7 0 回～第 1 7 3 回	後期試験前復習	4 回
第 1 7 4 回～第 1 7 5 回	期末試験 (後期)	2 回
第 回～第 回		回
第 回～第 回		回
第 回～第 回		回

※期末試験は前期1回、後期1回とする。